

はじめて

このテキストは、小学四年生までに国語で学習する基本事項をしっかり身につけるとともに、将来の中学入試にも十分対応できる、本格的な文章読解力を養成することを目的につくられました。

文章がある程度読めても、筆者の考え方や感じ方の持ちよう、また、作品の主題や要旨など内容の深いところまで読みとり、理解するためには、文章読解のポイントを把握しなければなりません。加えて、記述式の解答を求めるけい向が強まっている現在、理解したことを正確に伝えるための書く力・記述力がないと、入試において得点することはできません。

このため、テキストでは、読解力のポイントを学習することとへい行して、基礎力としての漢字やことばの知しきの学習と、文章を書く力をのばすための学習ができるしくみになっています。

国語の基礎を身につけ、文章を読みとるうえでのポイントを理解したら、あとはいろいろな文章に接することで広い世界に目を向け、社会がかかえるさまざまな問題について考え、思考力をおおいに深めてください。

このテキストを計画的に活用することで、一人ひとりが大きな成果をあげられることを期待しています。

◆ テキストのしくみと使い方 ◆

一・読む力をつける・国語の知しき

基本問題

……**考え方**を手がかりにして問題を解くことで、読解のポイントを学習します。

練習問題

……自分の力で問題を解くことで、「基本問題」で学習したことがらを定着させます。

国語の知しき

……漢字・語句・文法の知しきを身につけます。

二・読む力をのばす・書く力をつける

練習問題

発展問題

……さまざまなレベル・内容の問題を解くことで、読解力をきたえます。

書く力をつける

……文章を書く力をのばします。

実力完成テスト

……テキストの総まとめのテストです。自分の学力を試してください。

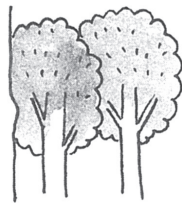
◎漢字ドリルでは、四年生までに学習する漢字を覚えます。

四年国語 もくじ

		一・読む力をつける・国語の知しき				二・読む力をのばす・書く力をつける		
1	話題と要点をとらえる	4	17	説明文の読みとり(1)	108	17	説明文の読みとり(1)	108
2	指示語と接続語	8	18	説明文の読みとり(2)	112	18	説明文の読みとり(2)	112
1	かなづかい・送りかな	12	[1]	文章中の符号・ 原稿用紙の使い方	116			
2	漢字の部首・画数・筆順	14	19	意見文の読みとり	120			
3	文脈をとらえる	16	20	随筆文の読みとり	124			
4	段落	20	[2]	短い文を書く	128			
3	漢字の音と訓	24		漢字ドリル5	132			
4	同音異義語・同訓異義語	26	21	物語の読みとり(1)	134			
	漢字ドリル1	28	22	物語の読みとり(2)	138			
5	細部を読みとる(1)	30	[3]	文のつながりを考えて書く	142			
6	細部を読みとる(2)	34	23	紀行文の読みとり	146			
5	熟語の組み立て／ 三字熟語・四字熟語	38	24	記録文・報告文の読みとり	150			
6	同類語・反対語	40	[4]	説明文を読んで、 記述問題に答える(1)	154			
7	要旨をとらえる(1)	42		漢字ドリル6	158			
8	要旨をとらえる(2)	46	25	伝記文の読みとり	160			
7	語句の意味・用法(1)	50	26	脚本の読みとり	164			
8	語句の意味・用法(2)	52						

漢字ドリル 2	54
9 要約の練習	56
10 場面・情景をとらえる	60
9 慣用句・ことわざ	64
10 辞典の使い方	66
11 登場人物の気持ちや性格(1)	68
12 登場人物の気持ちや性格(2)	72
11 主語と述語	76
12 文の基本型	78
漢字ドリル 3	80
13 表現を味わう	82
14 筆者の気持ちや考え	86
13 修飾語	90
14 指示語・接続語	92
15 主題(1)	94
16 主題(2)	98
15 副詞／擬声語・擬態語	102
16 敬語	104
漢字ドリル 4	106

[5] 説明文を読んで、 記述問題に答える(2)	168
27 詩の読みとり(1)	172
28 詩の読みとり(2)	176
[6] 物語を読んで、 記述問題に答える	180
漢字ドリル 7	184
17 知しきのまとめ(1)	186
18 知しきのまとめ(2)	192
29 実力完成テスト(1)	198
30 実力完成テスト(2)	204





話題と要点をとらえる

◇基本問題

● 上の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

問一 問いかけるかたちで、この文章全体の話題を示している段落だんろくを、段落の番号で答えなさい。

段落

考え方

ポイント整理の(1)・(2)の点に着目します。文章の初めの部分に注意しながら、「問いかけるかたち」の文や表現をさがしましょう。「……でしょうか」、「……だろうか」など、問いかける文の文末表現ぶんまつに注目しましょう。

本文

問二 ④段落から⑦段落の各段落の要点としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一八三四年ごろ、イギリスではまだ切手を用いず、郵便物を受け取るときに、受取人が料金をはらっていた。

イ 首府ロンドンだけは、料金前ばらい、という方法を取っていたので、事業として成り立っていた。

ウ 受取人が料金をはらうという方法では、郵便物が受け取ら

本文

ポイント整理

話題と要点のとらえかた

- (1) 話題は、文章の初めに述べられているのがふつうである。
- (2) 〈問いかけの文〉には、話題を提出する働きがある。
- (3) くりかえし使われている重要なことばや表現に注意する。
- (4) 〈要点〉は、各段落の初めか終わりに書かれていることが多い。
- (5) だから・したがって・つまり・このように、などの直後に注意。

れないこともあって、事業として成り立ちにくかった。
 工 料金前ばらいの印として、切手が考え出され、実際に使われるようになった。

4

5

6

7

考え方

各選択肢（ア～エ）の内容が何段落の内容と同じであるか、注意力とていねいな読みがためされています。

問三

この文章を、話題を示す段落（序論）、くわしく説明する段落（本論）、まとめの段落（結論）というように大きく三つの部分に分けるとすると、次のどれが正しいですか。

- ア ① ② ③ ・ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ・ ⑧
 - イ ① ② ・ ③ ④ ⑤ ⑥ ・ ⑦ ⑧
 - ウ ① ② ・ ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ・ ⑧
 - エ ① ・ ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ・ ⑧
-

考え方

まず、問一をしっかりと考えることで序論をとらえることができます。イギリスで切手をはることが考え出されるまでの説明がどこまでかしっかり読みましょう。その説明にもとづいて、郵便切手についてまとめている部分が結論です。

＊練習問題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

本文

問一

1 2 3 にあてはまることばを次の中から選びなさい。

- ア そして
- イ だが
- ウ また
- エ たとえば
- オ それでは
- カ だから

1

2

3

2

指示語と接続語

◆基本問題

● 上の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

問一 [A]・[B]にあてはまることばを次の中から選びなさい。

ア そして イ つまり ウ しかも

エ ところが オ さて

A

B

考え方

[A]は、5行目「水分や養分の多い肥えた土地」と7行目「めったに雨のふらない砂漠」、8行目「養分の少ないやせ地」とに注目します。Aの前の②段落で述べられている内容とは対立する内容が、Aのあとで述べられていることから、考えましょう。[B]は、直前の「虫たちが近づいてくる」という事実をうけて、それにつづけて「えじきになってしまう」という新しい事実をつけ加えています。

本文

問二 —— 線①「このような」とは何を指していますか。「……の

ような」という形で、文中のことばを使って書きなさい。

本文

ポイント整理
指示語と接続語

- (1) 指示語内容の読みとりは、①指示語の前後、特にあとにつづく部分に注目し、指し示す内容と結びつくヒントをつかむ、②ヒントから、指し示す内容を推理する、③これが答えではないかと思われることをばを指示語にあてはめ、意味が通るかたしかめる、という三段階の手順にしたがうこと。
- (2) 接続語の働きのちがいを理解し、前後のかかわり方を考える。

考え方

あとにつづく部分に注目し、「住みにくいところ」
↓ 「や・せ・地」(8行目) というつながりをヒントに答えと
なることをさがしましょう。 **答えを指示語にあてはめて意
味が通るかたしかめる、という確認作業をわすれずに!**

問三

——線②「これ」とは何を指していますか。文中から四十五字の部分を見出し、その初めと終わりの四字を書きぬいて次のように答えなさい。ただし、句読点も一字に数えます。

、

植物

問四

文章全体を大きく二つの部分に分けるとすると、後半はどこからですか。段落の番号で答えなさい。

--

段落から

＊練習問題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

本文

1 かなづかい・送りがな

ポイント1 かなづかい

現在、わたしたちが使っていることばを「かな」で書き表すときのきまりを「現代かなづかい」といいます。「現代かなづかい」は発音どおりに書くのが原則ですが、例外として次のようなものがあります。

(1) 「オ・ワ・エ」と発音するもののなかで、「何々を・何々は・何々へ」のように、ほかのことばについて使われることばの場合は、「を・は・へ」と書きます。

例 水を飲む。 わたしは四年生だ。 学校へ行く。

(2) 「ジ・ズ」と発音するもので、次の場合は、「ぢ・づ」と書きます。

① 同じ音が重なる場合

例 ちぢむ・つづく・つづみ

② 二つのことばが合わさって一語となった場合

例 はなぢ（鼻血）・みかづき（三日月）・みぢか（身近）

(3) 長くのばす音（長音）は、「あ・い・う・え」をつけて書きます。「オ」段だけは「う」をつけて書きます。

例 おかあさん・にいさん・ふうせん・ねえさん
おとうさん（発音は「オトオサン」）

ただし、「オ」段の長音でも「お」と書き表すものがあります。

例 とお（十）・おおい（多い）・とおり（通り）

(4) 「言う」は、「ゆう」とは書かないで、「いう」と書きます。

1 次のことばの読みをすべてひらがなで書きなさい。

- (1) 氷水 () (2) 小包 ()
(3) 地面 () (4) 遠い ()

2 次の文で、現代かなづかいとして正しいものを選びなさい。

(1) ① ア ヒトリずつ
イ ヒトリづつ 順番に ② ア おうきな
イ おおきな 声で、

③ ア こんにちは
イ こんにちは と ④ ア ゆう
イ いう。

(2) 毎日 ① ア つづけて
イ つづけて 最後まで ② ア やりとおす
イ やりとうす こと

③ ア むずかしい
イ むづかしい ものだ。

ポイント2 送りがな

漢字を訓読みするとき、読み方をはっきりさせ、読みまちがいのないようにするために、漢字のあとにそえて書く「かな」のことを「送りがな」といいます。送りがなをつけるときには、次のようなきまりがありますが、例外もたくさんあります。

(1) 実際に使うとき、ことばの終わりの形が変わることばの場合、**形が変わる部分から送ります**。

① 動きや変化を表すことば(動詞)の場合

例 走らない・走ります・走る・走れば・走ろう

② ものごとの性質・状態を表すことばで、言い切りの形が

「――い」で終わることば(形容詞)の場合

例 青かるう・青かった・青くなる・青い・青ければ

ただし、「――しい」という形になる形容詞は、「し」から送ります。

③ ものごとの性質・状態を表すことばで、「――かだ」・

「――やかだ」・「――らかだ」という形のもの(形容動詞)

は、「か」・「やか」・「らか」から送ります。

例 静かだ・和やかだ・明らかだ

(2) ものの名まえを表すことば(名詞)は、送りがなをつけませんが、読みやすくするためにつけるものもあります。

例 勢い・後ろ・幸い・幸せ・便り・情け・自ら

3 次の各組のことばは同じ漢字で書きます。送りがなもつけて、漢字になおさない。

- | | | | | | |
|------|--------|-----|-----|-----|-----|
| (1) | ① すくない | () | () | () | () |
| | ② すこし | () | () | () | () |
| (3) | ① あがる | () | () | () | () |
| | ② のぼる | () | () | () | () |
| (5) | ① くるしい | () | () | () | () |
| | ② にかい | () | () | () | () |
| (7) | ① つめたい | () | () | () | () |
| | ② ひやす | () | () | () | () |
| (9) | ① おぼえる | () | () | () | () |
| | ② さめる | () | () | () | () |
| (11) | ① うまれる | () | () | () | () |
| | ② いきる | () | () | () | () |
| (2) | ① ほそい | () | () | () | () |
| | ② こまかい | () | () | () | () |
| (4) | ① さがる | () | () | () | () |
| | ② くだる | () | () | () | () |
| (6) | ① あきらか | () | () | () | () |
| | ② あかす | () | () | () | () |
| (8) | ① かよう | () | () | () | () |
| | ② とおる | () | () | () | () |
| (10) | ① おもい | () | () | () | () |
| | ② かさねる | () | () | () | () |
| (12) | ① ひらく | () | () | () | () |
| | ② あける | () | () | () | () |

4 次のことばを漢字になおさない。送りがなが必要ななら、正しくひらがなで送りなさい。

- | | | | | |
|------|-------|-----|-----|-----|
| (1) | かならず | () | () | () |
| (2) | いさましい | () | () | () |
| (3) | あらためる | () | () | () |
| (4) | やしなう | () | () | () |
| (5) | ついやす | () | () | () |
| (6) | きよらか | () | () | () |
| (7) | おこなう | () | () | () |
| (8) | はたらく | () | () | () |
| (9) | いきおい | () | () | () |
| (10) | はずれる | () | () | () |

2 漢字の部首・画数・筆順

ポイント3 漢字の部首と画数

(1) 漢字の部首

漢字を組み立てている部分のうち、漢字を形のうえから分けたりならべたりするときのものになる部分を、部首といいます。部首は、その漢字の意味を表す基本となります。漢和辞典を「部首索引」で引くための基本的知識です。

(2) 部首の種類……部首の位置によって次の七つに分類します。

⑥	⑤	④	③	②	①
たれ	かまえ	あし	かんむり	つくり	へん
厂↓まだれ 厂↓がんだれ 疒↓やまだれ	冂↓くにかまえ 冂↓もんがまえ 冂↓くにかまえ	心↓れんが 心↓したごころ 皿↓さら	宀↓うかんむり 宀↓あまかんむり 宀↓はつがしら 宀↓くさかんむり	冫↓おおざと 頁↓おおがい 冫↓おおざと 冫↓おおがい	彳↓にんべん 彳↓きへん 彳↓いとへん 彳↓こざとへん

⑦ によ



走↓しんによう
 走↓そうによう
 又↓えんによう

(3) 漢字の画数……漢字を組み立てている点や線などの一つ一つを「画」といい、それを数えたものを「画数」といいます。また、一字全部の画数を「総画数」といいます。

1 次の漢字の部首名と総画数とを答えなさい。

(1) 安	(2) 空	(3) 秋	(4) 利	(5) 都	(6) 院	(7) 投	(8) 脈	(9) 海	(10) 然	(11) 国	(12) 建	(13) 改	(14) 考	(15) 原	(16) 底
() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画	() 画

2 次の漢字の部首をのぞいた画数を答えなさい。

(1) 弱	(2) 級	(3) 聞
() 画	() 画	() 画
(4) 集	(5) 病	(6) 包
() 画	() 画	() 画

ポイント4 漢字の筆順 ひつじゆん

漢字を書くときに、いちばん自然で書きやすく、形も美しく整う正しい書き順を「筆順」といいます。
筆順には、おもに次のようなきまりがあります。

- (1) 上から下へ書く。
例 一 → 二 → 三 → 言 止 → 吉 → 言 → 直 → 喜
- (2) 左から右へ書く。
例 川 → 川 → 川 例 伊 → 伊 → 例
- (3) 中心を書いてから、左・右へ書く。
例 小 → 小 → 小 白 → 泊 → 淑 → 楽
例 火 → 火 例 ハ → ハ → 卜 → 性
- (4) 外側を先に書く。
例 同 → 同 → 同 例 国 → 国 → 国
- (5) 横の画から先に書く。
例 木 → 十 → 木 例 古 → 十 → 十 → 古
例外 田 → 田 → 田 例 曲 → 曲 → 曲
- (6) つきぬける横の画を最後に書く。
例 母 → 母 → 母 例 子 → 了 → 子
例外 世 → 世 → 世
- (7) つきぬける縦の画を最後に書く。

- 例 一 → 一 → 一 → 中 一 → 一 → 一 → 車
- 例外 甲 → 甲 → 甲 → 里
- (8) 「によう」には、あとに書くもの（之・又など）と先に書くもの（走など）とがある。

3 次の漢字の、**一**で示した画は何画目に書きますか。算用数字で答えなさい。

- (1) 右 ()画目
- (2) 左 ()画目
- (3) 飛 ()画目
- (4) 発 ()画目
- (5) 成 ()画目
- (6) 階 ()画目

4 次の漢字の筆順として正しいものをそれぞれの組の中から選びなさい。

- (1) 希 ア 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百 希
- (2) 世 ア 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百 世
- (3) 級 ア 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百 級
- (4) 必 ア 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百 必
- (5) 書 ア 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百 書
- (6) 博 ア 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百 博

20

随筆文の読みとり

*練習問題

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

本文

本文

問一 A・ B にふさわしい季節を次の中から選びなさい。

- ア 初春
- イ 初夏
- ウ 晩夏ばんか
- エ 初秋
- オ 晩秋ばんしゅう

A

B

問二 にあてはまることばを次の中から選びなさい。

- ア 美しい
- イ みごとだ
- ウ さびしい
- エ かなしい

問三 線①「わたしは少しずつ変わった」とありますが、筆者

の心ひかれるものが、どのように変わったのですか。文中のこ
とばを書きぬいて次のように答えなさい。ただし、句読点も一
字に数えます。

の		
から		

に変わった。	

問四 線②「それを思い出す」とありますが、思い出したこと

が書かれている部分の初めと終わりを行の番号で答えなさい。

行目から 行目まで

問五 線③「明るい墓」と筆者が表現した理由の説明としてふ

さわしいものを次の中から選びなさい。

- ア 生命あるものの姿すがたは見えないが、山上の湿原はいつも日光がたっぷりそそがれ、明るさに満ちているから。
- イ 生き物はみな死にたえて土に返り、生命の気配を失った湿原を、赤い金色の枯れ草がおおう風景が広がっているから。
- ウ 今、目の前には生き物の気配すらないが、そこは、かえるや蝶や鳥たちが喜びの時をすごした場所だから。
- エ もりあがるほどの緑におおわれた季節の中で、強い生命力しめを示すかのように、青がえるが力強く合唱していたから。

◆発展問題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

本文

本文

問一 「方言」のことを別のいい方で表している七字のことはを、文中から書きぬいて答えなさい。

問二 — 線①「方言のちがい」が生まれた理由の一つとして、筆者は何が制限されたことをあげていますか。文中から漢字二文字で書きぬいて答えなさい。

問三 — 線②「現代の日本人は……話せるようになっていく」とありますが、どのような方法や手段しゅだんをとおしてそのようになった

のですか。文中から三つ書きぬいて答えなさい。

問四

1・2にあてはまることばを次の中から選びなさい。

- ア そして
- イ しかし
- ウ だからといって
- エ けっきょく
- オ そのうえ

1
2

問五

筆者の考えと合っているものを次の中から四つ選びなさい。

- ア 方言は非常に便利なものである。
- イ 方言は、誇りほほをもって、どこでも堂々と使うべきだ。
- ウ 方言の中には、中央で減ってしまった古典語が残っている。
- エ 方言は、その土地の人にとっては、なつかしいものである。
- オ 方言は、全国に通じるように部分的に修正するとよい。
- カ 共通語は、今、軽んじかろじられつつある。
- キ 共通語は便利なものである。
- ク 方言、共通語の使いわけには、周囲への思いやりが必要だ。
- ケ 共通語をつくったのは、まちがっていたのかもしれない。
- コ 日本人は方言と共通語の両方を身につける必要がある。

【2】短い文を書く

ポイント③ 短い文を書く

短文作りの問題では、ことばの意味や使い方を正しく理解し、ことばのきまりにしたがった文を書くことが大切です。短い文を正しく書くことは、じょうずな文章を書くことにつながります。文を書くときには、次のような点に注意しましょう。

(1) 主語・述語の関係を整える

主語「くは・が」に対して、述語「どうする・なんだ・なんだ」が正しくつながっているかどうか確認する。

(2) 句読点を正しく打つ

句点がないと、文が終わっていないことになる。また、読点の位置によって、文の意味がちがってくることもある。

(3) ことばを正しく使って書く

ことばの意味を理解し、文の内容に合わせて正しく使う。

(4) 字数など、指示された条件を守って書く

指示された字数を守る。指示された字数よりもあまり少なくなならないようにする。上限だけを指示された場合は、少なくとも八割以上は書く。(十字以内という指示ならば八字以上は書く。)

1 次の各組の文の中から、ことばの使い方がまちがっているものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) ア ぼくは、サッカーの選手になりたい。

イ ぼくのゆめは、サッカーの選手になることだ。

ウ わたしは、車が多いことにおどろいた。

エ わたしがおどろいたのは、車が多い。

(2) ア もし雨がふったら、遠足は中止だ。

イ あなたの親切は、けっしてわすれない。

ウ そんな話は、とうてい信じられない。

エ まるで春が来たかのようなあたたかさだ。

(3) ア ちこくすることが心配で、心おきなく家を出た。

イ そんなことをしたなんて、心当たりがない。

ウ 友だちからの電話を心待ちにする。

エ きのは、心ゆくまで海水浴を楽しんだ。

(4) ア きょうは、朝からどんよりとした空だ。

イ この本を読むには、たっぷり三日はかかる。

ウ 山道を歩くと、空気がすんなりしていた。

エ 友だちのたのみを、きっぱりとことわる。

2

次の各文は、——線の部分のことばの使い方がまちがっています。その部分を正しく書き直しなさい。

- (1) わたしの欠点は、すぐにはらを立ててしまう。
- (2) ぼくの願いは、動物園で働きたい。
- (3) わたしはひろったカメラは、山田君のものだった。
- (4) まさか電車がおくれることはあるだろう。
- (5) たとえ反対されたら、わたしはあきらめるつもりはない。
- (6) そんな意見には、あまり賛成さんせいできる。
- (7) いくら走ったら、八時の電車には間に合わないだろう。
- (8) 午前中は、本を読んだりテレビを見た。

3

次の各文中の()にふさわしいことばを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 先ほどから、()電話のベルが鳴っている。
ア たくみに イ しきりに ウ みだりに
- (2) ぼくらの血の()ような努力が、ようやくむくわれた。
ア にじむ イ しみる ウ おどる
- (3) さくらが満開で、春()だ。
ア ひとしお イ つかのま ウ たけなわ
- (4) 庭一面にぎっ草が()いる。
ア かさばって イ はびこって ウ はばかって
- (5) バスがなかなか来ないので、わたしは()した。
ア どぎまぎ イ ちらほら ウ やきもき
- (6) 朝から働きどおしで、ぼくは()になった。
ア へとへと イ あきあき ウ こりこり
- (7) わたしはチームのみんななど、勝利の喜びに()。
ア くれた イ しずんだ ウ ひたった
- (8) ぼくは昨日、思わずひみつを()しまった。
ア おかして イ もらして ウ さまして
- (9) マラソン大会で優勝ゆうしょうして、全校の注目の()となった。
ア 主 イ 的 ウ 印
- (10) ぼくはテレビに気を()、勉強に集中できない。
ア とられて イ おかれて ウ ぬかれて

漢字ドリル 5

① 次の——線の漢字の読みがなを書きなさい。

- (1) 作品が印象に残る。 ()
- (2) 例を挙げて説明する。 ()
- (3) 野菜をたくさん食べる。 ()
- (4) 駅の改札口で友人を待つ。 ()
- (5) 浅い川だが魚がたくさんいる。 ()
- (6) よい天候にめぐまれる。 ()
- (7) みんなでテーブルを囲む。 ()
- (8) 合唱コンクールに出場する。 ()
- (9) サッカーの試合で点差が開く。 ()
- (10) 箱の側面に色をぬる。 ()
- (11) 失敗は成功のもとになる。 ()
- (12) 多くの種類の花がさく。 ()
- (13) メートルは長さの単位である。 ()
- (14) 散らかった室内をかたづけ。 ()

② 次の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) キュウキュウ車が走る。 ()
- (2) エイゴが話せるようになりたい。 ()
- (3) みんなでキョウリョクしてがんばろう。 ()

(4) ショカの山々が緑につつまれる。 ()

- (5) キセツのうつりかわりを楽しむ。 ()
- (6) ジシヨを引いて調べる。 ()
- (7) イネのハツガする様子を記録した。 ()
- (8) 仕事がジュンチョウに進む。 ()
- (9) マトはずれな発言が続く。 ()
- (10) 池のシュウイを歩く。 ()
- (11) 色がヘンカする。 ()
- (12) 新しいビルがカンセイした。 ()
- (13) 植物の生長をカンサツする。 ()
- (14) 話し合ってもメイアンが出ない。 ()

③ 次の——線のカタカナを送りがなをつけて漢字に直しなさい。

- (1) 復習をカナラズしよう。 ()
- (2) みんなの幸せをネガウ。 ()
- (3) くつのひもをムスブ。 ()
- (4) むだな作業をハブク。 ()
- (5) 重要な使命をオビテ出発する。 ()
- (6) 明日、わたしがこちらへマイリマス。 ()
- (7) テレビの音で目がサメタ。 ()

④ 次の各組の——線の同音異義語を漢字に直しなさい。

- (1) ① テンコウ生と話を^いする。
 ② テンコウがよくないので運動会は中止だ。
- (2) ① サイシンの注意をは^いらう。
 ② サイシンの型の自転車に乗る。
- (3) ① 入会した人にはトクテンがある。
 ② サッカーの試合でトクテンする。
- (4) ① 百メートルキョウソウで一位になる。
 ② 暗算の速さをキョウソウする。

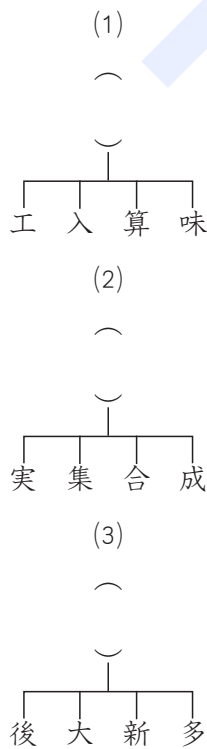
⑤ 次の——線の熟語は正しくありません。正しい同音異義語に直しなさい。

- (1) 試合は以外な結果に終わった。
 (2) 次の機械にはぼくも行きたい。
 (3) クラス医院を選挙で選ぶ。
 (4) 後世なしんぱんを求める。
 (5) 少し休んでから会議を再会する。
 (6) 旅費の成算をする。
 (7) 赤んぼうがどんだん生長する。
 (8) 研究の対照を決める。
 (9) コンクールの開場にとうちやくした。
 (10) りっぱな行いを、みんなから関心される。

⑥ 次のそれぞれの()に漢字を入れて、熟語のしりとりを完成させなさい。(同じ番号には同じ漢字が入ります。)

- 例 動(物) → (物)体 → 体(重) → (重)力
- (1) 雨(①) → () → () → () → () → () → () → ()
 (2) 親(①) → () → () → () → () → () → () → ()
 (3) 空(①) → () → () → () → () → () → () → ()
 (4) 品(①) → () → () → () → () → () → () → ()
 (5) 注(①) → () → () → () → () → () → () → ()

⑦ 次の()に漢字を入れると、下の漢字と組み合わせさせてそれぞれ二字熟語ができます。入る漢字を答えなさい。



⑧ 次の熟語がそれぞれ反対語になるように、()に入る漢字を答えなさい。

- (1) 失意 ↓ () 意
 (2) 肉食 ↓ () 食
 (3) 物質 ↓ () 神
 (4) 理想 ↓ () 現
 (5) 生産 ↓ 消 ()
 (6) 積極 ↓ () 極

マイ ジュック
My Juck

国語 4

かいとう かいせつ
解答と解説



一・読む力をつける・国語の知しき

1 話題と要点をとらえる

4～7ページ

〔基本問題〕 問一② 問二④ア ⑤ウ ⑥イ ⑦エ 問三ウ

〔練習問題〕 問一 1エ 2イ 3オ 問二Aイ Bア Cア Dイ

問三砂漠のひろがりぐりをくいとめる 問四ア 問五⑦段落 問六イ

問七はだかの土 問八②段落から⑥段落まで 問九ウ

解説

解説

2 指示語と接続語

8～11ページ

〔基本問題〕 問一Aエ Bア 問二めったに雨のふらない砂漠や、雨

はふっても養分の少ないやせ地のような 問三空を飛ぶくにつけた

問四③段落から

〔練習問題〕 問一 1イ 2オ 3ア 4ウ 問二大陸が動く 問三世

界地図・アフリカ大陸・南アメリカ大陸・びったりとくっついてし

まう 問四かっつたのだ(いった) 問五⑨ 問六⑥⑦ 問七新

しく生ま 問八エ

解説

解説

① かなづかい・送りがな

12～13ページ

- 1** (1) ころみず (2) こづつみ (3) じめん (4) とおい
(1) ①ア (2) イ (3) ア (4) イ (2) ①イ (2) ア (3) ア
- 2** (1) ①少ない (2) ②少し (2) ①細い (2) 細かい (3) ①上がる (2) 上る
(4) ①下がる (2) ②下る (5) ①苦しい (2) ②苦い (6) ①明らか (2) ②明かす
- 3** (7) ①冷たい (2) ②冷やす (8) ①通う (2) 通る (9) ①覚える (2) 覚める
(4) ①下がる (2) ②下る (5) ①苦しい (2) ②苦い (6) ①明らか (2) ②明かす
(10) ①重い (2) ②重ねる (11) ①生まれる (2) ②生きる (12) ①開く (2) 開ける

② 漢字の部首・画数・筆順

14～15ページ

- 1** (1) うかんむり・6 (2) あなかんむり・8 (3) のぎへん・9
(4) りっとう・7 (5) おおざと・11 (6) こざとへん・10
(7) てへん・7 (8) にくづき・10 (9) さんずい・9
(10) れんが(れっか)・12 (11) くがまえ・8 (12) えんしよう・9
(13) ぼくしよう(のぶん)・7 (14) おいかんむり(おいがしら)・6
(15) がんだれ・10 (16) まだれ・8
- 2** (1) 1 (2) 3 (3) 8 (4) 4 (5) 5 (6) 3
(1) 7 (2) 3 (3) 8 (4) 4 (5) 5 (6) 3
- 3** (1) 2 (2) 1 (3) 4 (4) 4 (5) 1 (6) 7

4

(1)
ア

(2)
イ

(3)
ア

(4)
ア

(5)
ア

(6)
ア

次講座

次講座

前講座

前講座

20 随筆文の読みとり

124～127ページ

(練習問題) 問一 A オ B イ 問二 ウ 問三 山・新しい雪・雪が降り
積もる前の枯れた草の原 問四 22行目から26行目まで 問五 イ

解説

解説

〔発展問題〕 問一 その土地の言葉 問二 交際 問三 テレビの普及・交通の発達・移住 問四 1 イ 2 ウ 問五 ウ・エ・キ・ク

解説

解説

【2】 短い文を書く

128～131ページ

1 (1)エ (2)ウ (3)ア (4)ウ

考え方

(1)エ「わたしがおどろいたのは、車が多いことだ(った)。」となるのが正しい。(2)ウ「そんな話は、どうても信じられない。」となるのが正しい。(3)ア「心おきなく」は「心配しないで。えんりよしないで」という意味です。「るす番を姉にたのんで、心おきなく家を出た。」のように使います。(4)ウ「すんなり」は「あっさり。順調に」という意味で、「すんなり試験に受かった。」のように使います。「山道を歩くと、空気がひんやりとしていた。」となるのが正しい。

2

(1)例立ててしまうことだ (2)例働くことだ (3)例わたしのひろった (4)例ないだろう(あるまい) (5)例反対されても (6)例賛成でさない (7)例走っても (8)例見たりした

考え方

(1)「欠点は」が主語ですから、述語は「〜ことだ」という形になります。(2)「願いは」が主語ですから、述語は「〜こと

だ」という形になります。(3)「カメラは」という主語に「は」が使われているので、「わたしのひろった」となるのが正しい。(4)「まさかくだらう」という形になるのが正しい。(5)「たとえても(でも)」という形になるのが正しい。(6)「あまりくない」という形になるのが正しい。(7)「いくらでも(でも)」という形になるのが正しい。(8)「たり(だり)」は「見たり聞いたり」のように二つならべて使うのが正しい。

3

考え方

(1)イ (2)ア (3)ウ (4)イ (5)ウ (6)ア (7)ウ (8)イ (9)イ (10)ア
(2)ア「血のにじむような」は、「たいへん苦しんで努力するようす」を表すことばで、「血の出るような」も同じ意味です。(3)ウ「たけなわ」は「ものごとの最もさかんなとき。まっさいちゅう」という意味です。(4)イ「はびこる」は「草や木などが一面に広がりにしげる」という意味です。「悪者が勢い(いきほ)をふるう」という意味でも使われます。(5)ウ「やきもき」は「どうなることかと、いらいらする」ようすを表します。(6)ア「へとへと」は「ぐったりつかれるようす」を表します。(7)ウ「ひたる」は「そんな気持ちになりきっている」という意味です。(8)イ「もらす」は「こっそり人に知らせる。思っていることを口に出す」という意味です。(9)イ「多くの人が関心をもち、注目する人やできごと」のことを「注目的」といいます。(10)ア「気をとられる」は「心をうばわれる」という意味です。

4

(1)例夜には、おそらく雪がふり出すだろう。(2)例今日は、まるで真夏のような暑さだ。(3)例バラの花が、ひときわ美しくさいて

いる。(4)例秋の日は、いつしかとっぷりとくれていた。(5)例今までのことは水に流して、仲よくしよう。

考え方

(1)「おそらくくだらう」という形で使います。(2)「まるでのよう」とたとえる言い方の文を作りましょう。(3)「ひときわ」は「ほかのものどくらべて、いちだんと」という意味です。(4)「いつしか」は「いつのまにか。知らないうちに」という意味です。(5)「水に流す」は「今までのいやなことや関係などを、きれいにわすれてしまおう」という意味の慣用語(かんげうご)です。

5

(1)例明日の運動会は、たぶん中止になるだろう。(2)例もし天気がよければ、海へ泳ぎに行きたい。(3)例やましいことはないので、ぼくは平気だ。(4)例先生の一声で、教室のざわめきがやんだ。(5)例ぼくは、ひたすらみんなの無事をいのった。

考え方

(1)「たぶんだろう」という形で使います。(2)「もしくならば」という形で使います。(3)「やましい」は「心がとがめて、はずかしい。うしろめたい」という意味です。(4)「ざわめき」は「ざわざわする音」という意味です。(5)「ひたすら」は「ただただそればかり」という意味です。

6

(1)例山田君のピアノのうまさには舌をまいた。(2)例徒競走では、わたしは君に歯が立たない。(3)例今ごろ反省してみても、後の祭りだ。(4)例問題がむずかしくて、ぼくはさじを投げた。(5)例運動会が一等になって、とても鼻が高い。

考え方

(1)「舌をまく」は「感心して、おどろく」ときに使います。(2)「歯が立たない」は「かなわない」という意味です。(3)「後の祭り」は「だいたいなときにおくられて、まにあわないこと。手お

くれ」という意味で使われます。(4)「さじを投げる」は「見こみがない」とあきらめる。見はなす」という意味です。(5)「鼻が高い」は「得意である」という意味です。

7

(1) 例夕食後、父はそそくさと部屋を出ていった。(2) 例空が暗くなる、たちまち雨がふってきた。(3) 例これは、わたしのささやかなおくり物です。(4) 例ぼくは、ひとまず家までもどることにした。(5) 例兄は、あっけなく一回戦で負けてしまった。

考え方

(1)「そそくさと」は「あわてて、落ち着きのないようす」を表します。(2)「たちまち」は「急に。すぐに」という意味です。(3)「ささやかな」は「小さいようす。目立たないようす。そまつなようす」を表します。(4)「ひとまず」は「とにかく。いちおう」という意味です。(5)「あっけない」は「はりあいがいい。物足りない」という意味です。

漢字ドリル5

132～133ページ

- ① (1) いんしょう (2) あ (3) やさい (4) かいさつぐち (5) あさ
(6) てんこう (7) かこ (8) がっしょう (9) てんさ (10) そくめん
(11) しっぱい (12) しゅるい (13) たんい (14) ち
- ② (1) 救急 (2) 英語 (3) 協力 (4) 初夏 (5) 季節 (6) 辞書 (7) 発芽
(8) 順調 (9) 的 (10) 周囲 (11) 変化 (12) 完成 (13) 観察 (14) 名案
- ③ (1) 必ず (2) 願う (3) 結ぶ (4) 省く (5) 帯びて (6) 参ります
(7) 覚めた
- ④ (1) ① 転校 (2) 天候 (2) ① 細心 (2) 最新 (3) ① 特典 (2) 得点

(4) ① 競走 (2) 競争

⑤ (1) 意外 (2) 機会 (3) 委員 (4) 公正 (5) 再開 (6) 精算 (7) 成長

(8) 対象 (9) 会場 (10) 感心

⑥ (1) ① 天 (2) 温 (2) ① 切 (2) 行 (3) ① 席 (2) 位

(4) ① 質 (2) 題 (5) ① 意 (2) 学

⑦ (1) 加 (2) 結 (3) 最

⑧ (1) 得 (2) 草 (3) 精 (4) 実 (5) 費 (6) 消

次講座